

此日本新聞七月二十五日の「政治行政
とやま」の記事を読んで

二年 織田 峻太郎

富山の工芸品がミラノで展示されることか
決ま。たという内容でした。富山県は認知度
ワーストろと入い、たというのを昔、聴い
たことがあります。そんな富山県を日本中、
世界中へアピールするチャンスなのではない
かと思えます。

富山の伝統工芸は昔から伝わる美しく、す
ばらしい技術だと思えます。しかし、トリエ
ンナール美術館には実用性のある作品が出版
されるので、出版される工芸品、高岡銅器、
高岡漆器、庄川挽物、木地、越中和紙などの工
芸も実用できる形の作品でなければいませ
ん。そんな形になると、美しさといいものを
そのまま普通の作品のように出せるのかと思
いました。しかし、記事のような美しさが出
た名刺入れや針さし、エコバツクなどができ
ていました。僕はよく父に展覧会などへつれ

てこられよく作品を見せられたのですが、その作品がそのまま道具になつたような格好いいデザインだなと思ひました。そして、これらの作品を作つた方はすごい技術を持つていらっしゃる方だなと思ひました。

この県伝統工芸品展示会に出展されることが決まつたのは、その伝統工芸を受け継ぎ、守り続けてきた人がいたからではないかと思ひます。伝統工芸が続いてきたからこそ新しいデザインの伝統工芸をアピールすること

かできるのではないかと思ひます。そして、この伝統工芸を守り続けるには、僕達、若者の力が必要なのではないかと思ひます。いつかは、守つてゐる人がいなくなるのを防ぐために、新しく守つていくことができるようにしなければいけません。しかし、僕の周りの友達に将来のことを聞くと、誰もそのことを考へていません。僕の父は伝統工芸士ですが、僕もなるかは迷つています。

それでも、少しでも若者に興味を持つても

らうことも必要だと思えます。僕の学校では、
伝統工芸の挽物木地の体験をしています。僕
達はそんな風に伝統工芸にふれて、伝統工芸
の将来のために少しでも力になることが必要
なのではないかと僕は思います。